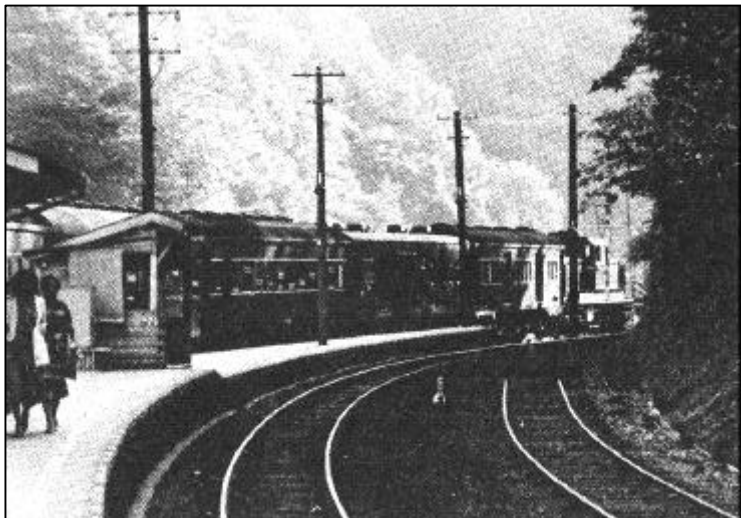


福知山線のおもいで



客車編成の列車が停車する旅情豊かな 武田尾駅
先頭はDF50からパトンタッチの新鋭 DD51 (S58)



電化複線化に伴うルート変更により、この
武田尾 - 生瀬間の景勝ルートは廃棄された

同線はトンネルが多いため比較的早く無煙(ディーゼル)化されたが、単線・非電化の状況は昭和後期まで続く。

昭和30年代に入り、近代化が急速に進む一方、鉄道では相変わらず蒸機が走り続け、機関士の過酷な労働でも社会問題になっていた。そんな折に無煙化に先鞭をつける旗手としてディーゼル機関車(DF-50)は登場した。大出力の変速機に課題があったため、ディーゼル発電機の電気でモーターを駆動する電気式が採用された。



相野駅での客車編成同士の行き違い
長編成に注目 (S44)

近代化遺産シリーズ
日本の動力近代化に貢献した
ディーゼル機関車(DF50)

